

## 日本公衆衛生雑誌投稿規定

(平成10年4月1日から実施)

変更は下線部分

1. 本誌への投稿は共著者も含めて本学会会員であることを原則とする。
2. 他誌に発表された原稿(予定も含む)の投稿は認めない。
3. 本誌は原則として投稿原稿およびその他によって構成される。
  - 1) 投稿原稿の種類とその内容は表1のとおりとする。

表1 投稿原稿の種類

種 類	内 容	制限頁数
1. 論 壇 Sounding Board	公衆衛生の活動, 政策, 動向などについての提案・提言	5 頁
2. 総 説 Review Article	研究・調査論文の総括および解説	12頁
3. 原 著 Original Article	独創的な研究論文および科学的な観察	10頁
4. 短 報 Short Communication	独創的な研究の短報, または手法の改良・提起に関する論文	5 頁
5. 公衆衛生活動報告 Public Health Report	公衆衛生活動に関する実践報告	10頁
6. 資 料 Information	公衆衛生上有用な資料	10頁
7. 会員の声 Letter	掲載論文に対する意見, 海外事情, 関連学術集会の報告など	1 頁

(刷り上り1頁は400字詰原稿用紙のほぼ4枚に相当する)

本誌には上記のほか編集委員会が認めたものを掲載する。

- 2) 投稿原稿のうち, 3~6の構成は原則として表2のとおりとする。  
(表2の構成によらない場合は投稿の際その理由を付すこと)
4. 会員の投稿には連絡通信事務費(投稿料)および掲載料を必要とする(会員の声を除く)。投稿料はその実費が上回った場合は, 追加請求することがある。投稿料および掲載料は理事会の議を経て変更することがある。
  - 1) 投稿の際は, 連絡通信事務費(投稿料)を原稿送付と同時に振替口座00110-8-129419(日本公衆衛生学会)に納入のこと。

表2 投稿原稿の構成

項 目	準ずる項目	内 容
抄 録	要旨, まとめ	目的・方法・成績・結論にわけて, 見出しをつけて記載すること。(1,000字以内)
キーワード		(6個以内)
I 緒 言	はじめに, まえがき	研究の背景・目的
II 研究方法	方法と対象・材料等	研究・調査・実験・解析に関する手法の記述および資料・材料の集め方
III 研究結果	研究成績	研究等の結果・成績
IV 考 察	考案	結果の考察・評価
V 結 語	おわりに, あとがき	結論(省略も可)
文 献		文献の記載は6.10)に従う

- 2) 投稿原稿が掲載された場合, 当該原稿の制限頁数の頁作成に要する費用の30%を学会が負担する。その他, 図の作成に要する費用および別刷代は著者負担とする。
5. 編集委員会は投稿原稿について修正を求めることがある。修正を求められた原稿はできるだけ速やかに再投稿すること。返送の日より6か月以上経過して再投稿されたものは, 新投稿として扱うことがある。なお, 返送から6か月以上経過しても連絡がない場合は, 投稿とり下げとみなし原稿を処分することがある。  
編集委員会で修正を求められ再投稿する場合は, 指摘された事項に対応する回答を別に付記するものとする。
6. 投稿原稿の執筆要領
  - 1) なるべくワープロ使用が望ましい。B5判又はA4判の用紙に, 横書きで25字×16行又は25字×32行(32字×25行でもよい)で印字する。数字及び英字は原則として半角とする。  
手書きの場合は, B5判又はA4判400字詰横書き原稿用紙を使用する。数字及び英字は原則として1マスに2字とする。
  - 2) 新かなづかいを用い, できるだけ簡潔に記述する。誤字やあて字が多く, 日本文として理解が困難な場合は返却することがある。
  - 3) 投稿原稿は原則として日本文とする。外国語の原稿を投稿する場合は事務局に問い合わせること。ただし, 図, 表および写真の説明は英文で記載してもよい。
  - 4) 数字は算用数字を用い, 単位や符号は慣用のものを用いる。

- 5) 特殊な、あるいは特定分野のみで用いられている単位、符号、略号ならびに表現には必ず簡単な説明を加えること。
- 6) 外来語は片かなで書く。外国人名や適当な日本語訳のない術語などは原綴を用いる。手書きの場合ローマ字は活字体(なるべくタイプ)を用い、イタリック体で記述する場合はアンダーラインで示す。
- 7) 図、表および写真には図1、表1および写真1などの番号をつけ本文とは別にまとめておき、原稿の欄外にそれぞれの挿入希望位置を指定する。

図は原則としてそのまま掲載できる明瞭なものとする。

- 8) 原稿には表紙を付し、上半分には表題、希望する原稿の種類、別刷必要部数、原稿枚数、図表および写真の枚数を書き、キーワードを記す。下半分には、著者名、所属機関名、編集委員会への連絡事項および連絡者の氏名および連絡先(所属機関、所在地、電話、ファクシミリ)などを付記する(2枚にわたってもよい)。

異なる機関に属する者の共著である場合は、各所属機関に番号をつけて氏名欄の下に一括して示し、その番号を対応する著者の氏名の右肩に記す。

別に英文表紙をつけ、表題、著者名、所属機関名、キーワードを記す。

- 9) 原稿には400語以内の英文抄録をつけること。ただし、論壇、公衆衛生活動報告、資料、会員の声については、これを省略することができる。英文抄録の構成は和文抄録(表2)に準じタイプ(ダブルスペース)し、専門家によるチェックを受けること。
- 10) 文献の記載様式

(1) 文献は本文の引用箇所の肩に<sup>1)</sup>、<sup>1-9)</sup>、<sup>1,3-5)</sup>などの番号で示し、本文の最後一括して引用番号順に記載する。文献の著者が3人までは全員、4人以上の場合は3人目までを挙げ、4人目以降は省略して～、他とする。

(2) 雑誌名は原則として省略しないこととする。その雑誌が使用している略名がある場合は使用してもよい。

(3) 記載方法は下記の例に従う。

① 雑誌の場合

著者名. 表題. 雑誌名 発行年(西暦); 巻: 頁-頁.

1) 寺尾敦史, 小西正光, 馬場俊六, 他. 都市の一般住民におけるたばこ煙暴露状況喫煙の生

化学的指標を用いた分析. 日本公衛誌 1995; 45: 3-14.

2) Browson RC, Chang JC, Davis JR. Occupation, smoking, and alcohol in the epidemiology of bladder cancer. Am J Public Health 1987; 77: 1298-1300.

② 単行本の場合

著者名. 表題. 編者名. 書名. 発行所所在地: 発行所, 発行年(西暦); 頁-頁.

3) 古野純典. 5つのがんの記述疫学的特徴. 廣畑富雄, 編. がんとライフスタイル. 東京: 日本公衆衛生協会, 1992; 21-43.

4) Rothman KJ. Modern Epidemiology. Boston: Brown and Co, 1986; 56-57.

③ 原則として、特殊な報告書、投稿中原稿、私信などで一般的に入手不可能な資料は文献としての引用を差し控える。

- 7. 投稿原稿は本文、図、表、写真、抄録などもすべて正1部、副2部を送付する。副本は複写でもよい。できればフロッピーディスク(3.5インチ フォーマット形式を明示)を同封すること。
- 8. 投稿原稿送付の際は封筒の表に「日本公衆衛生雑誌原稿」と朱書きし、下記に簡易書留で郵送する。  
〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-29-8  
日本公衆衛生学会  
日本公衆衛生雑誌編集委員会
- 9. 投稿原稿の採否は編集委員会で審議し決定する。掲載原稿の著作権は本学会に帰属する。
- 10. 初校は著者が原稿の控えを用いて行う。校正の際の加筆は認めない。
- 11. その他、本規定に関する問い合わせは事務局へ。

<投稿料> 5,000円

<掲載料>・1頁 7,500円

・図の作成に要する費用 実費

別 冊 価 格 表

頁	部数								
	30	50	100	150	200	250	300	350	400
1~4	2,800	3,020	4,450	5,410	6,350	7,280	8,200	9,370	10,540
5~8	3,720	4,000	5,980	7,020	8,100	9,160	10,200	11,570	12,900
9~12	4,600	5,000	7,470	8,710	9,900	11,100	12,260	14,050	15,800
13~16	5,580	6,040	9,320	10,320	11,630	12,950	14,250	16,210	18,160
17~20	6,500	7,020	10,800	12,350	13,890	15,400	16,900	19,150	21,400

500部以上は別途計算になりますので、事務局にお問合わせください。

## 編集 後記

本誌では、論文掲載の可否をめぐって、ピアレビューを経た後、編集委員会が最終的な判断を下している。私も一員としてその作業に加わっているが、会員の論文はすべて掲載すべきであるという気持ちと一定水準以下の論文は却下して学術論文掲載誌としてのレベルを上げたいという気持ちが常にせめぎ合っている。そして採否の基準がかなり揺れ動いているのを自覚しており、内心忸怩たる思いである。いわゆる個人内変動である。

また、個人間のばらつきも大きく、どちらかという辛目の判断をする編集委員、甘い意見を言う委員、慎重派の委員、その他複数の考えの総意として、落ち着くべき所（と私は思う）に落ち着き、本号も御覧のような論壇1編、原著3編、公衆衛生活動報告1編、資料2編となった。このようなジャンルにした最終責任は編集委員会にあるのだが、活動報告や資料はそれぞれの特徴を前面に出していただきたいものである。ある種の資料は原著としての価値はなくとも、会員にとって貴重な情報源になるに違いない。編集委員会の審査もその点を十分考慮している。

(清水弘之)

## 次号予告

### 総説

肺癌発生における薬物代謝酵素の遺伝子多型の役割……………清原千香子, 他

### 原著

育児ストレスの規定要因に関する研究……………坂間伊津美, 他

インフルエンザの流行と超過死亡……………橘 とも子, 他

1980年-1994年……………橘 とも子, 他

保健所における HIV 抗体検査来所者の受検動機

発生から来所までの行動と不安……………高橋幸枝, 他

日本人の最高酸素摂取量, 換気性閾値および脚伸

展パワーの標準値策定の試み……………太田壽城, 他

幼児のアトピー性皮膚炎と母乳の関係……………中村好一, 他

### 公衆衛生活動報告

妊婦 HIV およびクラミジア・トラコモテイス抗

体スクリーニング体制の確立 長崎方式による

取り組み……………山本太郎, 他

兵庫県内で起きた腸管出血性大腸菌感染症集団発

生時における保健所の初期対応のあり方と支援

体制に関する事例研究……………山本昭夫, 他

### 資料

中国におけるプライマリ・ヘルスケアの現状と

課題……………高 同強, 他

### 会員の声

高齢者の高血圧管理……………鷺尾昌一

## 「感染症予防必携」を3月末刊行!!

これまでご利用いただいております「伝染病予防必携」を、新たに制定された「感染症予防及び感染症の患者の医療に関する法律」の内容をもりこみ、全面的に改訂して刊行いたします。

発行 財団法人日本公衆衛生協会  
 編集委員長 山崎修道 (国立感染症研究所長)  
 執筆 者 各分野の専門家  
 A5版 約500頁 定価4,305円 (本体4,100円)

### 主な内容

- 掲載されている疾病数 約230余疾患
- 各疾病についての記述
  - I 臨床的特徴 1. 病型と症状 2. 病原体 3. 検査
  - II 疫学的特徴 1. 発生状況 2. 感染源
  - 3. 伝播様式 4. 潜伏期
  - 5. 伝染期間 6. ヒトの感受性
- III 予防・発生時対策 A. 方針 B. 防疫
- C. 流行時対策 D. 国際的対策
- 最近の感染症流行状況 (世界地図上に流行地域・準流行地域別)
- 資料編
  - 感染症予防に関する基礎知識
  - 院内感染
  - 日和見感染
  - 予防接種実施上の留意点
  - 感染症関係統計資料
  - 関係法令等

▶ご注文・お問い合わせは

財団法人 日本公衆衛生協会

TEL 03-3352-4281 (代表)

FAX 03-3352-4605